

圓満寺報

第 165 号

平成 28 年 3 月 1 日発行

天台宗 別格 本山 安禅院円満寺

〒220-0061 横浜市西区久保町50-1

電話 (045) 231-4383

F A X. (045) 241-4499

<http://enmanji-yokohama.jp/> e-mail:enmanji@xb3.so-net.ne.jp

節分会 (豆まき) 盛大に執行



節分会 (豆まき) 参加の年男、年女の人々

平成二十八年の円満寺節分会は、年男、年女の方々、円満寺総代の方々、厄除けを願う方々の御参加により、豆をまいてくださいます方々三十数名にて盛大に行われました。

節分会はその年の厄男、厄女の方々の厄を払い、今年一年間身体健全で過ごせますように祈る法会であります。

当寺では住職が大導師を勤め、職員その他の式衆八名により「大般若転読会」が行われ、経本をさらして厄を除くのであります。そして読経の功德により年男、年女の人々に健康を成就させるものであります。

今年はず晴天に恵まれ、写真にもございますように近隣の人々で境内はうめつくされました。小学生や子ども達、高齢の方々も多数お集まりくださり、賑やかな豆まきになりました。

近隣の寺社で節分会を行っているところが少ないためか、豆を求めて集まられます善男、善女は例年にまして多いように思われます。

特に最近では、近くの稲荷台小学校の先生方が、子ども達が安全に参加できるように気配りをされており、自転車、うば車、その他の移動作業等にも進んで参加して頂いております。

今年で二十八回目の豆まきとなりましたが地域の行事として欠かせないものになっております。檀信徒の方々もどうぞ大いに御参加くださいます事を期待致しております。

御陰様で昨年円満寺書院、庫裡、納骨堂が完成致しまして、大変使い易く、人々が集まりくださる場所として、大いに機能を発揮しております。今後も種々の行事を行います振るって御参加くださいませ。

安禅院第四十世 住職 西郊良光
円満寺第五世



豆まきの豆を待つ子ども達



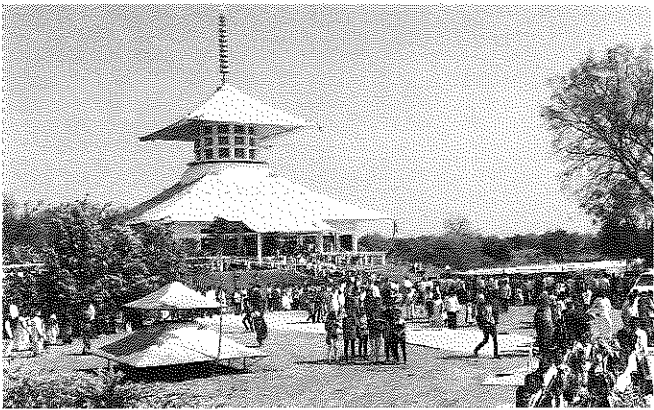
豆をまく年男、年女の人々



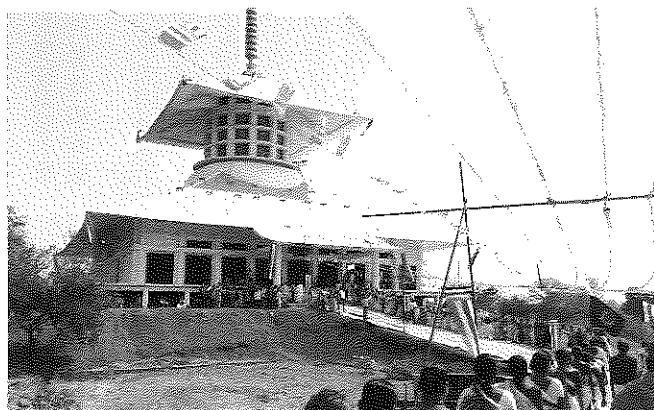
袋をもって豆を待つ人々



境内一杯の人々



禅定林に参拝の人々



美しいインド禅定林

インド禅定林九周年法要と勤修

天台宗インド禅定林は、インドのヘソと言われますナグプール市郊外のポーニ村に建立されて今年で九周年を迎えました。

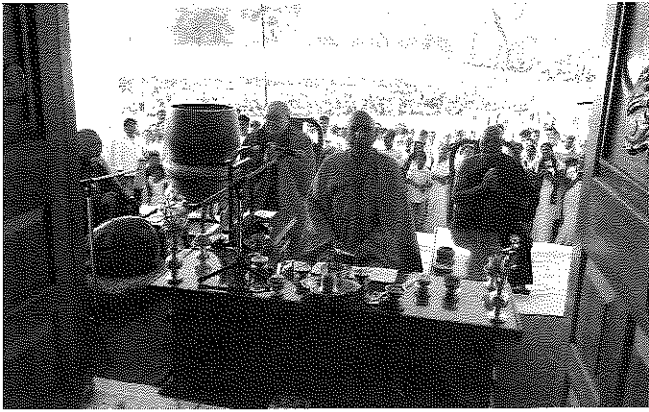
ようやく境内の環境も整備され、その美しさは遠くより眺めてもすばらしいものであります。

禅定林住職のサンガ・ラトナ・マナケ師の努力によって今般九周年の法要が勤修されました。小生もその法要に招かれ、二月五日〜十一日までインドに出張し、ポーニ村、また大本堂より少し離れたところにあります「ドンガルガル大仏」の法要も行って参りました。

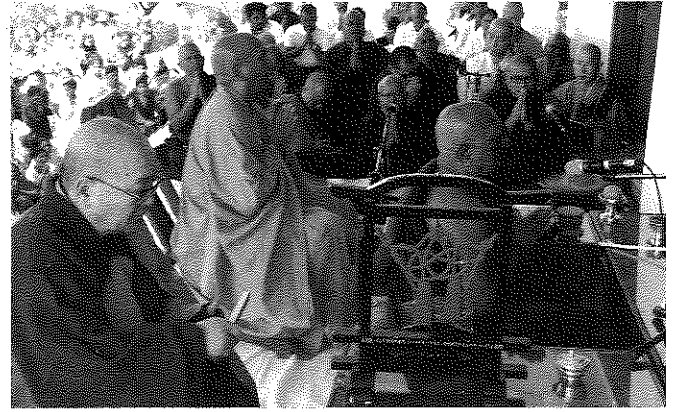
現在インドは急速に経済発展しており、その姿を実感してまいりました。

またインドは大方の人々がヒンズー教ですが、ここ二、三年、ネオアディスト（新仏教徒）が増加し、一億人が仏教徒になったということがあります。ヒンズー教はカースト制度を認め格差を容認する宗教であります。これに対し仏教はすべての人々が平等であるとの考えから、低カーストの人々が仏教に改宗しております。インド禅定林にも三十万の人々が参拝されます。

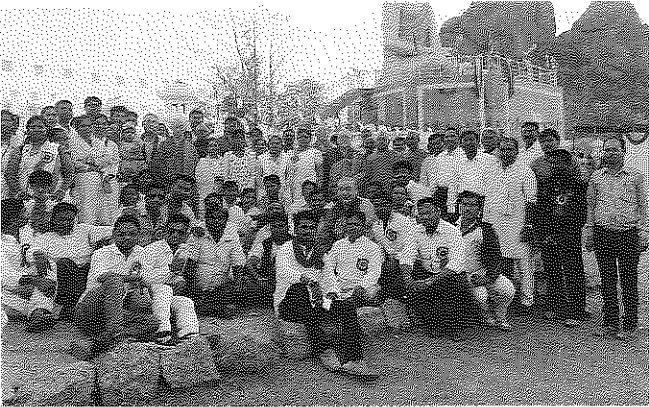
九周年も無事に済ませることができました。



サンガ・ラトナ・マナケ師による法要



インド禅定林で九周年法要



ドンガルガル大仏さま前にて記念写真



ポーニ村を巡拝する参加者達

円満寺勤行儀

第二回

〜 帰敬文 〜

お正月の円満寺報に引き続きまして、当寺でのお勤めでお唱えしているお経について簡単に解説したいと思います。

帰敬文は(きぎようもん)と読み、「人身受け難し今すぐに受く。仏法聞き難し今ここに聞く」という言葉から始まります。「この身今生に於いて度せずんば更に何れの生にか此の身を度せん。われ今、三業清浄にして行ずる大小の善根、及び誦経の功徳を以て、普く仏道に回向し、自他共に悟り満じて永く無上の樂しみを受けん。即ち大衆と共に、至心に三宝に帰敬したてまつる。」

その内容を簡単にいいますと、このような事が書かれています。

人間としてこの世に生を受けるといふことは、本来とても難しいのです。その上で、仏の教えに出会えるといふことは、さらに得がたい機会なのですが、私は今この瞬間にその機会を得ているのです。だから、心と体を清らかにして良い行いをし仏

様を敬います。そして、自分だけではなく周りの人たちと一緒に、得がたいことを得られた喜びを共に分かち合い仏様を敬います。

このお経の中の、人間として生まれることは本来とても難しいという部分。普段の生活の中で、自身が人として生きているということ意識して考えることはあまり無いと思います。その当たり前に思ってしまうけれど、あらためて考えると、そう有る事が難しい『有り難い』ことなのだと言われています。

私たちは両親がいて祖父母がいて、ご先祖様がいてこの世に生を受けています。生まれてからも様々なご縁があって、多くの人たちに支えられて現在があります。ご先祖様や縁があった人たちに感謝をして、今の自分もまた誰かの支えになっている、なっていくのだと思うことで、当たり前の中にある有り難さにあらためて気づけるのではないのでしょうか。

